

改訂された

「音楽リズムの指導書」にもとづいて



山 村 き よ

昭和二十三年に「音楽リズム改訂委員会」がもたれてから五年越してようやく今年の五月に文部省からかねて作成中の音楽リズム指導書が発行されました。中味を拝見してまず驚いた一人です。こんなにも簡単にまとまってしまうのかと……改訂委員の一人に加えていたゞいた私はあの三十何回にわたって熱心に御協議下さった先生方がそれぞれの専門的立場で沢山の資料を示して下さって、御高説のプリントが回を重ねる度に厚く重って行つたことを知っているだけに、資料の中のものをもっともつと沢山皆さんにお目にかけられたらと残念に思う一人です。そういう意味ではあの指導書に印刷されている活字の一つ一つに重要な意味がふくまれていているわけで、一字ものこさず充分よみとらねばならないという感じを人一倍多く持っている者の一人ともいえるでしょう。この「書」が出ない前に中間報告の意味で文部省が全国を三班に分けて説明会をもたれたことがあります。その直後から「資料編はまだか、まだか」としつこく皆さんからたずねられただけにこの本を手にして一番喜ん

だのも又私かも知れません。資料編がいつまでも出なかったために一番多くの問題をもつた「動きのリズム」ではあちこちに「イミテーション」とも考えられるような説明書がかかれたり、又発表会をもたれたりして内容は今までの表情遊戯の取扱い方と少しも変わっていないのに「動きのリズム」の改訂されたものとして図まで昔のままのような示し方をしては多方面に発表されたことなどもあつてここにも根柢よくはつた「幼稚園のマンネリズム」を感じてきた一人です。

そこでもう少し具体的な指導過程、指導の実際を示していただき度いものと再々文部省にもお願いしてみたり資料を提きようしてきたりしましたが、あの頃はCIEの関係もあつたり、又「文部省」の立場としては、又昔のような模倣を主にした「幼稚園の表情遊戯」と同じようなことになるのではないかと心配されてか？………：とう／＼のせていたゞくことが出来ませんのであの沢山の資料はどこえやら………ほんとに最後までここの二、三の方々と一生懸命

に協力してきただけに残念に思つて居ります。しかしこれが発行される運びになつたことについては他の方々には想像も出来ないような苦心をされた文部省の先生方、ことに初等科の鹿内先生(その頃は中島先生)に感謝しなければならぬと思ひます。これを手にした人達の中には「なあんだ、こんな簡単なものだったのか」と思われた方もあるかと思ひますが、資料の一つ一つを選ぶにも多くの立派な先生方が、それぞれ専門的立場から選んで下さつた尊い御協力を感謝しなければならぬと思ひます。そしてあの中にももられてあることは、今までの幼稚園の唱歌遊戯の取扱ひ方とは違つたところに、着眼して編纂されていることを充分知つて「思いきつたきり替え」をして指導せねばならないと思ひます。そこで次のようなことを考へてみました。詳しいことはあの指導書を充分およみ下さればわかりますので私は大体的着眼点のみを引き出して、それに適當する實際の指導例をのべてみたいと思ひます。

- (1) 目標の中から、
幼児に「いろいろの音楽的經驗を与えて美しい心情を養ひ、幼児の生活を豊かにする」このいろいろというところに新しい着眼点がおかれてゐるわけです。
- (2) 指導過程の中から
1 聞くこと
2 歌うこと
3 ひくこと
4 動きのリズム

右にあげられた四つのことの一つ一つが次に示すように「基本的

なこと」を考慮しながら指導されなければならないのです。

イ 幼稚園の中に「いつ」「どこにでも」自然と音楽的気分が味はえるように充分な用意を必要とします。

ロ 機会をとらえて指導することも忘れないように、又幼児の即興的な作詞、作曲などみつけ出さねばなりません。

ハ 多面的な取扱ひをすること。

一つの材料を歌うだけでなく、歌つて、おどつて、リズムにのつて気持ちのまゝに自由に表現出来るように誘導しなければなりません。

ニ より音楽を沢山かせること。

今までの幼稚園では割合にきくことが困難とされていたように思ふので、きく、やすい環境におくこと、レコードばかりでなく幼児が興味をもてるようないろいろのものをつかつて「きく生活」を多く考へて指導せねばなりません。

ホ 音楽によつてそれぞれの個性をのばしてやらねばなりません。

ヘ 大きくなつて役立つような音楽的発声その他の基礎を養うことに努力せねばなりません。

ト いつも幼児の成長發達の段階に充分注意して「無理」のない指導をしながらある程度の「評価」が常に先生の頭の中にはつきりと考へられて居らねばなりません(昔は氣分のままに歌つていて歌詞が少々まちがつていても、音程がはずれていても割合に氣にしないで次に進んだようにも思われます。)

(3) 評価の中から

○幼稚園でも家庭でも自分から喜んで音楽をきく様になつたか。

- 音楽に対して自由に反応する力ができたか。
- 静かにしてきく習慣ができたか。
- らかな声で歌うようになったか。
- ことばをはっきり歌うようになったか。
- リズムを正しく歌うようになったか。
- 音程を正しく歌うようになったか。
- ひとりて歌うようになったか。
- 音楽をきいて、顔に表情を示したり、からだを動かしたり、運動を起したりするようになったか。
- 速度を正しく歩くようになったか。
- 大きく、のびのびとした動きが出来るようになったか。
- リズムカルなうごきを楽しむようになったか。
- 音楽に合わせて正確に楽器が打てたか。
- 幾種類かのリズム楽器が打てたか。
- 楽器を大切にすることができたか。
- 合奏において協同的態度ができたか。

(附)

音楽リズムで先生方が一番苦心され、相当地に重要視して考えて居られるのは遊ギ会とか学芸会、誕生祝会などに見せるために「上手にさせ度い」「ほめられたい」という気持ちから幼児には程度の高すぎる要求をもって居られるのではないでしようか？ 幼児の興味、活動を中心に無理のない指導過程が順序よくくりかえされた上で、その基礎の上に立って程度の高いものに進むべきであって、常に基礎的な指導もなされずに気分のみ、に行っていて、遊ギ会とか、

学芸会の近くになると「せっかちに」同じことを何回もくりかえし練習しては出来上りの「うまさ」ばかりを求めているような指導法にひきずられているお子さん達を度々見かけます。(四、五才の小さい子供に一茶のおぢさん、白雪姫、その他程度の高い幼児の生活には縁遠いようなものを一生懸命練習させて)

次に新しい音楽リズムの指導書にもとずいて「四月」入園したばかりの幼児を取扱う實際例をかんとんにのべてみましょう。次に示すようなことが先生方に沢山用意されていて計画的にくり返し、くり返し指導されて五月、六月、と進むにつれて効果を表わして、七月の七夕祭には何んらの練習もせずとそのまゝの姿で舞台にのせられるべきだと思えます。

(指導の實際例その一)

入園当初は個人差のある家庭環境から音楽生活にも非常にまちまちな生活をしてきているのでことさら幼稚園の生活の中には自然に音楽が流れるよう用意しておきます(朝のラヂオ「歌のおばさん」先生の歌声、レコードなど)

(→アンダンテの速度で歌ったり、手をたゝいたり、歩いたり、スキップをします。

- 音楽をきいて手をたたく。
- 自由にすぎなようにあるく。
- 歌いながら拍手をする。
- いばってあるく。
- すましてあるく。
- ハンドカスタをたゝきながらあるく。

○お友達と二人である。三人である。

○手をつないでである。手をつたってある。

○ならんである。

○歌いながらある。靴がなる、結んで開いてなど。

○スキップをする。

○手をたゝきながらスキップをする。

○ハンドカスタをたゝきながらスキップをする。

○二人でスキップ、三人でスキップ。など。

○以上のようなことは先生が先頭につかないで（昔のように）子供達だけで先生の正しくひくピアノの音や、リズムのはっきりした曲のレコードに合わせて毎日楽しくくりかえしながら先生の頭の中には始終次のような評価をしながら五月に進みます。

〔評価〕

○先生のひくピアノの曲や、レコードに合っているかどうか。

○レコードや、先生のひくピアノ、又は歌声にだまって耳をかたむけているかどうか。

○音楽に反応している様子が見えているかどうか。

○幼稚園の中に自然と音楽が流れているかどうか。

○音楽リズムの指導を喜んでうけているかどうか。

○以上のような過程を通った上で次のような計画的なまとまった指導もいたします。

〔指導の実例その二〕

○主題 「さくららのトンネル」

〔目標〕

新しい子供を対照に唱歌「さくら」を指導しながら、曲に合わせて歩くうちにアンダンテの速度感を完全に体得させます。

〔第一次指導〕

○唱歌「さくら」（文部省指導書—P）を先生のピアノでメロディ

ーだけきかせたり、歌ってきかせたのち、みんなで歌います。

（きれぎれに指導するのではなく始めから終りまで一度になんべんもくりかえしながら）

○手をたゝきながら歌います。

○年長組の子供がいたら「桜のトンネル」をつくらせます。（できれば一番せいの高い子供を選んで自由につくらせます）

○歌いながら「さくら」のトンネルの門をくぐって通ります。

〔第二次指導〕

○二人で手をつないで歌いながらトンネルをくぐります。

○さくららの花をみながらトンネルをくぐります（二人で手をつないだまま）

○（年長組幼児がトンネルをつくっている場合は、ときどき風にさくららの花びらがゆれるように暗示を与えます）

〔第三次指導〕

○みんながさくららの花になったつもりで足ぶみしながら輪になりま

す。

○（年長組幼児がいる場合は花輪つなぎを連想させて輪になりチェーンのように一人おきにぬって歩く。新入園児は歌いながら拍手をする）

〔評価〕

○先生のひくピアノに合わせて歌えたか。

○歌詞をはっきりおぼえたか。

○曲に合わせて歩けたか。

○歌いながらあるけたか。

○音を意識して歩いていったか。

○みんなが喜んで参加していたか。

(指導例その三)

◎主題「あいさつ」

(目標)

新入園児がお友達と「おはよう」の挨拶も自然にできるように、しかも楽しいリズムにのせてアンダンテの速度感を完全に体得させます。

(第一次指導)

○先生のひく正しいピアノの音に合わせて「靴がなるの」唱歌を歌います(歌いながら歌詞のまちがいを直します)

○拍手しながら歌います。(歌詞をはっきりと)

○さあ、これからみんなで元気よく幼稚園に行きましょう。(歩きながら歌う)

○いろいろな路を通して元気に歌を歌って行きましょう。(自由な方向にピアノ音に合わせて歩かせる)

(第二次指導)

○お友達に出あったら止って「おはようございます」のあいさつをしましょうね。

(先生は曲の都合のよい所でピアノを止めます、少しはなれてい

てもかまはない)

○みんなの言葉だけははっきりとあいさつをしながらおじぎをする。

○さあ、また歩きましょう、こんどはなるべくお友達にあえるように歩きましょうね。(先生のピアノの音で歩き出します。こうしたことを二三回くりかえす内にピアノが止ったらすぐ止る、なり出したら歩き出すように指導する)

(第三次指導)

○幼稚園の御門が見えたからスキップでいきましよう。(ピアノに合わせてスキップ)

○又お友達にあったから「あいさつ」をしましょう。(さっきのくりかえし)

(第三次指導)

○幼稚園の先生が見えたからお友達と二人でスキップしながらそばに行つて「あいさつ」をしましょう。

(みんながわかるがわる幼稚園の先生になってアンダンテの速度正しく歩く)

○幼稚園の先生にはみんなが自表な表現をするように暗示を与えます。

○曲を止めて、「先生おはようございます」。

以上は「たあいなあいさつ」であるけれど幼稚園生活第一歩の新入園児は喜んでリズムにのってきます。時には歌をやめて「曲だけ」で自由に表現させてもよく、レコードをかけて子供達同志で面白く、楽しんで音楽に反応しています。評価は前の場合と同じで四月中にこれだけのことが完全にできて次に進み「アレグロの速度感」「速度の変化」「動きのリズムに入る自由表現」(41頁に続く)

ったりするのであるから、面白い。昨年と今年と二年に亘って、この市長評議会の議長を努めているのが北川台輔氏という、ミネアポリスの日本人教会の牧師さんで、市民権も持たないのに市長の直接諮問機關の議長をしているわけであるから一寸珍らしい。これらの運動については稿を新めてお話しねばならない。さて、アメリカを訪問する多くの人が、アメリカの人種問題を攻撃するのであるが、日本の国でも同じ事が行われ、又行われようとしている事を我々ははつきり認識しているであらうか。朝鮮人に悪いことは何でもおしつけてしまったり。或いは又最近の黒人或いは白人混血児の問題はどうなることだろうか。

戦後の産物として出来た父なき子であるが故に、或はもと／＼の日本人とは異った髪と皮膚と目の色を持って生れて、きたその故にその子供は白眼視されなければならぬのだからか。この子供達が育ちつ、ある。そして自己を見た時に青年期になって煩悶するに違いない。この子供達に社会は尙その上白い眼を向け、教育の道を限り、職業の道を限るだろうか。社会が白眼を

もって受け容れ、励ましてやれるだろうか。日本の社会で。

幸に、私達のこの問題は、今社会の人々

が気がついて出来る限りのことをしてゆけばまだおそくはない。近所の家に、混血児をかくしている家はないだろうか。学校でいじめられている混血児はないだろうか。

近所でひそやかにとやかや陰口をきいて

いる人はないだろうか。皮膚の色が違っても髪の色が違っても、同じ心を持った人間である。

これらの子供達を受けいれられるか否かという事は、日本がこれから世界に立つてゆけるか否かという問題の鍵がかくされて

（お茶の水女子大学講師）

（23頁より続く）

「自由打ちのリズムあそび」「二拍子、四拍子、三拍子の拍手打ち」などに順序よく進んで、一学期中にこれらのことが「やや完全」に指導されていれば二学期中には幼児達の身についた完全な指導効果が得られるわけです。そして三学期には相当程度の高いリズム打ちや、分奏、の指導にも入れるし、動きのリズムも音楽によく反応した自由表現が楽しくできるようになつてきます。こうした順序を立てての計画的な指導をうけたものが家庭生活にも音楽的な環境に恵まれて成長し、三学期の遊ギ会や学芸会などにすばらしいできばえを見せたからといって「幼稚園にしてはうますぎる」とか「幼稚園で尤ずかしいものをやっている」などと批評するのはまちがいで音楽的環境に恵まれた者と、恵まれない者の差は、他の生活とはくらべものにならないほどの個人差をもたせたり又性格の上にも、生活態度の上にもいろいろと影射のあることを考えるとき、音楽リズムの指導には常に苦心を必要とすると同時に先生自身の音楽的研究が必要とされるわけです。

◎註（實際例の三つはあくまでもサンプルで一つの方法をなんべもくりかえさぬよう、このような指導法を沢山に用意されるようにくれぐれも御注意願います）

（東京都文京区立第一幼稚園長）